

DVD版の案内

闘病実話映画

文部科学省選定/日本PTA全国協議会特薦/優秀映画鑑賞会推薦

原作 植木亜紀子・植木 誠/監督 山田典吾

〈カラー作品〉

ママ、ごめんね

あっこちゃんの日記

江波杏子/なべおさみ/高岩 愛/石野真子/二木てるみ/長岡輝子



胸に迫る生の喜び

死後二十年余を経た今も感動が語り続けている
8年間、白血病と闘った少女の記録

「ママ、ごめんね」と言いながら
明るいついでに綴ったあっこちゃん
11才の白血病闘病日記！

視聴時間1時間14分 ライブラリー価格 52,500円 (税込み)

<http://www.mama-gomenne.com>



東映株式会社 教育映像部

〒104-8108 東京都中央区銀座3-2-17 ☎03-3535-3631

<http://www.toei.co.jp/edu/>

短い生涯をけなげに生きた少女には「静かな勇気」と

いえるものがあつた、と思う。—朝日新聞「天声人語」—

あつ子ちゃんを支えた、病友・クラスメート
担任・家族・ドクター・ナースの何ものにも
代えがたい強い愛と絆を描く。

映画・ビデオ「ママ・ごめんね—あつ子ちゃんの日記」の内容

あつ子（植木亜紀子）は、三歳の夏、白血病とわかった。あと一年の命と、言われ、入退院を繰り返しながら五年生となった。放射線治療で頭髪がない、あつ子は、マツト運動の時、カツラがずれたり、とれそうになるので体育が嫌いだった。先生は「カツラを取ったら……」と勧めたので母と相談し坊主頭で登校した。友は、ひやかしたり笑ったりしたが、あつ子は開きななつたのでした。夏の終り、あつ子は母と荒川土手へ行くと赤トンボが乱れ飛んでいた。母が捕ろうとすると、あつ子は「自然の方がいいよ。トンボの短い一生でも今が一番、楽しいのだと思う」と、いった。秋、あつ子は八度目の入院をした。ある事で母と主治医と口論となった。あつ子は、そのことに胸を痛め日記に「私のため先生を悩ませ、母を泣かせてごめんさい」と書いた。

十一歳の誕生日、クラス全員が、

「あつこ、はやく、よくなつて、がっこうへきて」

と千羽鶴で書いた横断幕を道路に広げて激励してくれた。

年の春に退院したが、正月あけに九度目の入院となる。虫の知らせか、あつ子は机の中をきれいに整理していた。

「病院で学校の給食を食べたい」という、あつ子に担任は、「私が運びます」と、いつてくれた。

やがて、あつ子のいのちが燃えつきようとする日、学校の屋上の金網ごしに、

「あつこー、あつこー」

と級友の大合唱が風に流れて聞こえてきた。あつ子は、窓辺で、「みんなも元気でねー」と、つぶやいた。

翌日の三月十二日、朝、あつ子は家族、看護師、医師に見守られながら「ママ・ごめんね、ごめんね・ママ」と、いつて息を引きたつた。十一歳の春まだ浅き日だった。

制作の視点

人間は多くの人に支えられて生きていくことと、どんな時でも強い心と人への思いやり、そして感謝の心が大切であることを少女の生き方から感じとる。

急性白血病と言われて驚く
父（なべおさみ）と母



あつ子ちゃんの高熱に驚く
母親（江波杏子）



関東営業推進室 東京都中央区銀座3-2-17 〒104-8108 ☎03-3535-3631
関西営業推進室 大阪市北区梅田1-12-6 〒530-0001 ☎06-6345-9026
広島出張所 広島市中区八丁堀16-10 〒730-0013 ☎082-511-2066
福岡出張所 福岡市博多区中洲4-3-18 〒810-0801 ☎092-262-3101

●お買い上げは……

(株)オプチカル 販売課 教育映像係

香川県高松市屋島西町2484-8

TEL 087-841-1100

FAX 087-841-1101